

● 降誕節第二主日

泉のほとり

今月の詩編「第五十三編」

どうかイスラエルの救いが

シオンから起こるように。

神が御自分の民、捕らわれ人を連れ帰るとき

ヤコブは喜び踊り

イスラエルは喜び祝うであろう



救い主を追いやる世界

東方の博士たちによる「ユダヤ人の王」として生まれたと
の話を聞いたユダヤの王ヘロデは、自らの地位を脅かす存在
として幼子イエスを排除しようと動き出しました。

ヘロデは博士たちにイエスの居場所を探らせ、「見つけたら
教えてほしい」と言いますが、その真意はイエスを殺すこと
にありました。一方、博士たちは夢で神から警告を受け、ヘ
ロデのもとに戻らず別の道から帰国したのです。と共に、天
使がヨセフに現れ、「子供と母を連れてエジプトへ逃れなさい
」と告げたため、一家は急ぎエジプトへ避難します。ヘロ
デは博士たちが戻らなかったことに怒り、ベツレヘムおよび
その周辺で二歳以下の男児を皆殺しにするという残酷な行為
に及びました。

このマタイの福音書を読む人は、クリスマススの救い主の誕
生の喜びの知らせの直後に、この大虐殺の話を目にすること
になります。「神はなぜこのような不幸を許されたのか。な
ぜ幼子たちが皆殺しされないようにしてくださらなかったの
か。なぜヘロデのような悪者は生き延び、かわいそうな幼子
たちが殺されなければならないのか」との問いを多くが投げ
かける箇所です。しかし、このマタイはそれに何一つ答えて
いません。マタイの信仰の目には自明なことだからでしょう。

神はヘロデ王の悪事を知らないのか。それを悪事と見ず、だ
からお許しになったのか、そうではありません。人は二千年前
の幼子の命を皆殺しにしたことに対し憤慨しますが、神の時は
二千年前でも昨日のようです。何よりも神ご自身が造られた命
です。その命に対する暴力、殺戮であったことを私たちは忘れ
てはなりません。

人は殺された幼子たちの命を不幸と思うのです。母親には自
分が死ぬこと以上の苦しみがあったでしょう。そのような人間
的な悲しみ、不幸を否定することではありませんが、殺された
幼子の命は神の前でも本当に不幸なものでしょうか。神がおられ
なければ、その幼子の命ほど不幸なものもないでしょう。しか
し、本当に不幸なのは「ヘロデ」ではないでしょうか。神が

おられ、彼の悪事をすべて知っておられるのです。自分を改め
ず、そのまま生き長らえたなら、それこそヘロデにとつて不幸
そのもの、その年月はわざわざいいます。彼がその自分の罪と悪に
気づくことがなければ、幼子たちの命のみならず、神の御子を
殺したことの報いは一点たりとも軽減されることはありません。
神はすべての人を正しく見測られます。

このヘロデの残忍な行動を誰も「これほどの悪人がいるの
か」と言うと思いますが、以前、テレビで父親に虐待されたこ
とを恨む一人の若者のインタビューを見たことを記憶してい
ます。ある女の子は母親から「お前を産まないほうが良かった
」と言われたとの話を聞いたこともあり、ヘロデのような
「王」という立場ではありませんが、実際には王のように君臨
していることも案外、多く、最も身近な家庭内にも「ヘロデ」
は多く見られるものではないでしょうか。自分の思い通りにな
らなければ、気が済まない人々の世界。特に墮落した人間は自
分の善悪、自分の義を主張するものとなりました。家庭を神か
らのものではなく自分の義、正しさが支配するものになりますと、
いつの間にか自分を王とする自分の国が築かれるのです。それ
ゆえに夫も妻も子供も親も苦しめられることも少なくないでしょ
う。

ヘロデの虐殺の記事はヘロデがいかに残忍な人であるかとヘ
ロデを裁くためにある話ではありません。博士たちがエルサレ
ムにきて「ユダヤ人の王はどこにおられますか」と聞いた時、
ヘロデはイエスを殺すために男児を皆殺しにするのではなく、
「自分が退く時」と気づくべきでした。クリスマススのイエスの
誕生はこの世のすべての人がこの真の王が自分の中に即位でき
るように、人は自分の支配を捨て、自分を王としていくところ
から退かなければならないということを示しています。キリス
トは「王」として来られました。私たちの心の中が、この王を
王として生き、この方の支配を受け、この方の義の眼差しに従
うとき、私が築く所々、家庭であれ、職場であれ、すべてが神
の国を見ることになるのです。

2024年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

○今日は新年礼拝です。

○運営委員会、各小委員会をそれぞれ行います。

《ぶどうの会より》

本日、第二・三シオンルームでぶどうの会を行います。

《礼拝伝道委員会》

本日礼拝後、クリスマス関係の飾りを片付けますので、ご都合のつく方はご奉仕いただけますよう、お願いいたします。

《教会事務所より》

次週、一月二二日(日)の一六時頃から二三日(月)にかけて、キュービクル(高圧受変電設備)の更新工事を行います。全館停電しての工事となります。皆様、ご協力をお願いいたします。

《交読詩篇》

※会衆は太字を唱和します。

【詩篇五十三篇】

指揮者によって。マハラトに合わせて。
マスクール。ダビデの詩。

神を知らぬ者は心に言う

「神などない」と。

人々は腐敗している。

忌むべき行いをする。

善を行う者はいない。

神は天から人の子らを見渡し、探される。

目覚めた人、神を求める人はいないか、と。

だれもかれも背き去った。

皆ともに、汚れている。

善を行う者はいない。ひとりもない。

悪を行う者は知っているはずではないか。

パンを食らうかのように、わたしの民を食らい
神を呼び求めることをしない者よ。

それゆえにこそ、大いに恐れるがよい

かつて、恐れたこともなかった者よ。

あなたに対して陣を敷いた者の骨を

神はまき散らされた。

神は彼らを退けられ、あなたは彼らを辱めた。

どうか、イスラエルの救いが

シオンから起こるように。

神が御自分の民、捕われ人を連れ帰られるとき

ヤコブは喜び躍り

イスラエルは喜び祝うであろう。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「神の業が現れるため」

聖書 ヨハネ9章11〜12節

説教者 吉村和雄名誉牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「大声で讃美、感謝」

聖書 ルカ17章11〜19節

説教者 宮間彰広兄

●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讃美歌 86番 502番

説教 「新しい自分を生きる」

聖書 二コリント5章16〜21節

説教者 吉村和雄名誉牧師





新年礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 110番 II 75番
説教 「幼子の心を目指す」
聖書 ルカ18章15～17節(新約 P.144)
司式 山下 純一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 黄 允湜 牧師

前奏曲「いずこの家にも」 J.S.バッハ

○讃美歌110番

1. 優しくも愛らしき 嬰兒イエス君

み父の旨とて人の子の如く

貧しくもなりましぬ

2. 優しくも愛らしき 嬰兒イエス君

み父の怒りを宥めて我らの

贖いとなりましぬ

3. 優しくも愛らしき 嬰兒イエス君

あめなる喜び 降してこの世の

慰めとなりましぬ

4. 優しくも愛らしき 嬰兒イエス君

全てを献げて ぬかずく僕を

守りませとこしえに

アーメン

○聖歌隊による讃美

「ほめたたえよ創り主を」 (古いオランダの聖歌)

ほめたたえよ 創り主を

きよきみ前にひれ伏し

捧げまつれ 身をも魂(たま)をも

類なきみ名を あがめて

くすしきかな 神の力
荒ぶる波を しずめて
危うきより み民を守り
この世の悩みに 勝たしむ

めぐみの神 栄の主を
もろごえあげて たたえよ
強き手もて 導きたもう
主にのみ み栄尽きざれ

○讃美歌II 75番

1. 主よ、おさな子は み手にひかれ

主のみ国へ のぼりゆきぬ

あまつみ使い うたう国

2. 主よ、おさな子は みそばちかく

主のみ園の 花と咲きて

きよきかおりを 永久にはなたん

3. 主よ、おさな子をおもいうかべて

主のみ国を したいあおぐ

われをもやがて 招きたまえ

アーメン

聖餐曲「楽園にて」 (レクイエムより) G.フォーレ

後奏曲「汝のうちに喜びあり」 D.ウット

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。